

ART KISS LETTER



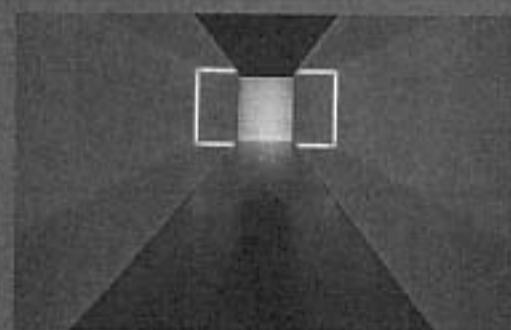
FOR KUMAMOTO ART PEOPLE

Vol.6

2001.12.15

ジェイムズ・タレルさん が熊本訪問

NHKの番組「未来への教室」でもおなじみの、世界的に有名な光の芸術家、ジェイムズ・タレルさんが、11月21日、熊本市現代美術館(仮称)の心臓部ともいえるホームギャラリーに、光の天井をデザインするため来熊しました。



光のインスタレーション



プランの打ち合わせ中のタレルさん。1969年の若かりし頃、3ヶ月間かけて自転車九州横断したそうです。お気に入りのは飛騨大野、「九州はふるさとのような場所」と語っていました。

JAMES TURRELL

略歴/1943年、アメリカのロサンゼルス生まれ。67年、パサディナ美術館での初の個展で光を素材に使う以来、光のアーティストとして知られるようになる。20年にもわたるライフワークである「ローアン・クレーター・プロジェクト」は、グランドキャニオン近くの、月のクレーターのような形をした土地に、光の地下空間を建設するもので、現在も進行中である。

将来の夢プロジェクト

去る11月17日(土)に、熊本市現代美術館(仮称)イベント第6弾として、「将来の夢プロジェクト」を上通アーケードで開催しました。これはさまざまなジャンルでご活躍の60才以上の人生の達人に、「将来の夢は？」とお尋ねし、自らの手で、大きなキャンバスに書いていただいたその答えを展示するというもので、第1回目として詩人の緒方惇さんに力作を発表していただきました。「でもわたしの死んだ少女たちが 再び殺されないためというなら 追ったわたしの終幕なんかどうでもいい」そして、「この街並のそら 旅しつついのち うたいたい」と綴られた緒方さんの心の叫びが、道ゆく人々の大きな共感を呼び起こしました。

第2回目は12月22日(土)午後1時から画家の板井榮雄さんが「将来の夢」を描いてくれることになっています。



緒方 惇さんの作品「遊びつつ」(上通アーケードにて)

ART DE ART GYAN

アート・ギャン

画廊 茶風堂

熊本県千歳町3-7-13 電話 3355-0132

●「アリの全作品展」(二〇一〇年一〇月一〇日～二〇一〇年一〇月二〇日)。磯谷精一さんの指導するグループ八人の展覧会。油彩の風景や静物などそれぞれ個性的な表現の油彩作品。指導の磯谷さんの作品は明確の構図が美しく緊張感のある構成で美しい。

●「RKK学苑水曜水彩教室展」(二〇一〇年一〇月二〇日～二〇一〇年一〇月三十一日)。西谷三郎さんの指導する水彩グループ展。いずれも誠実に勉強中の作品。約二〇点の展覧会。(K・T)

●「初回展 古賀秀子画展」(二〇一〇年一〇月三十一日)

ジエイ

熊本県大津町6-9-1 電話 3372-8732

●「開 史記子展」(二〇一〇年一〇月一〇日～二〇一〇年一〇月二〇日)。精密な描写の静物画の展覧会。手描のナイフもオランダの古い静物画も好きという開さん。まだ油絵を描きはじめた二年というがテクニックが巧く、集中した仕事ぶり。今後の仕事が楽しみ。(K・T)

●「RKK学苑七曜教室展」(二〇一〇年一〇月二〇日～二〇一〇年一〇月三十一日)

●「RKK学苑水曜水彩教室展」(二〇一〇年一〇月二〇日～二〇一〇年一〇月三十一日)

●「東山魁夷展」(二〇一〇年一〇月一〇日～二〇一〇年一〇月十五日)

●「阿蘇米塚の絵も一点。明るく優美な色彩で、明部の繊細な調子と暗部の複雑な調子がよくまとまっている。

●「オールドマイセンとアール・ヌーボー展」(二〇一〇年一〇月二〇日～二〇一〇年一〇月三十一日)。イカールのリトグラフやガレ、ドーム、ラリックのガラスそれにマイセンの絵付けの焼き物など。

●「第四回アマチュア絵画展」(二〇一〇年一〇月二〇日～二〇一〇年一〇月三十一日)。今回約四〇団体で四百点近くの作品の展示になった。大号以下の小さい油彩、水彩、水墨などの作品であるが、いずれも楽しく、工夫しながら誠実に描いたものばかり。(K・T)

ギャラリー 喫茶去

熊本県千歳町3-7-13 電話 3355-0132

●「坂口展」(二〇一〇年一〇月一〇日～二〇一〇年一〇月二〇日)。熊本県立美術館での信展開催に合わせて催された。出品された十四点はいずれも小サイズ。県立美術館に展示された大きなものと比べると、グラフィカルな図面が強調され、新たな魅力を見せていた。(K・T)

ギャラリー 萌

熊本県水前寺6-27-20 電話 3333-7001

●「展覧会 水彩画小展 心の引き出しシリーズ」(二〇一〇年一〇月十五日)。水彩画にこだわりのつづける作家の展覧会。ナイフエナメルのような粘りつきを持つ絵の具を用いてドリッピング、インナー省的なイメージを描き出した。濃とした表裏の中に、リアルな心の動きを感じさせ、印象深かった。(K・T)

●「展覧会 水彩画小展 心の引き出しシリーズ」(二〇一〇年一〇月十五日)。水彩画にこだわりのつづける作家の展覧会。ナイフエナメルのような粘りつきを持つ絵の具を用いてドリッピング、インナー省的なイメージを描き出した。濃とした表裏の中に、リアルな心の動きを感じさせ、印象深かった。(K・T)

画廊 茶風堂

熊本県千歳町3-7-13 電話 3355-0132

●「あとろえバリエーの三人展」(二〇一〇年一〇月一〇日～二〇一〇年一〇月十五日)。いわさき千鶴さんが主宰するグループの一〇名。中島るみ子、後田野子、加藤千恵さんの三人展。水彩やパステルの作品。(K・T)

●「ヴァイドリッチ版画展」(二〇一〇年一〇月二〇日～二〇一〇年一〇月三十一日)

●「第三回田代、坂本二人展」(二〇一〇年一〇月二〇日～二〇一〇年一〇月三十一日)

スペースレインボー

熊本県新井町1-7-7(シャワー通り) 電話 3324-0387

●「水と花」展(二〇一〇年一〇月八日～二〇一〇年一〇月二十一日)。花田恭子さんと比佐水音さんの二人展。花田さんの作品は子どもにのく不条理な世界観を描いたような穏やかで不思議な絵画作品。比佐さんは、水と花をテーマに、岩の肌色の美しさを素朴に生かして作品を描き上げていた。

●「アボアキグループ展」(二〇一〇年一〇月十五日～二〇一〇年一〇月二十一日)。熊本県美術協会絵画同好会の作品展。

●「シルバークレイアカデミー」(二〇一〇年一〇月十七日～二〇一〇年一〇月二十一日)。シルバークレイを用いて制作されたジュエリーの作品展。それぞれに凝ったデザインで、見るものを惹きつけた。展示即売も。

●「彫刻と絵画 高木基美子展」(二〇一〇年一〇月二十三日～二〇一〇年一〇月三十一日)。専門分野である石彫の作品と、バラがモチーフの絵画作品。ランブシエードを戴いた石の作品が印象的だった。(K・K)



高木基美子さんの作品

ギャラリー キムラ

熊本県水前寺3-9-5(通ケルビル内) 電話 3327-0196

●「本村セイ」作品展(二〇一〇年一〇月十七日～二〇一〇年一〇月二十一日)。シルクスクリーンで制作された版画と陶芸の展覧会。インテリジェントな効果的に用いた作品は、異空間を垣間見る感のよさに見え、心に残る。

●「第二回 グループ展」(二〇一〇年一〇月十四日～二〇一〇年一〇月二十一日)。RKK学苑の南藤三郎洋田講堂で学ぶ女性グループの展覧会。お話をうかがった杉原明子さんは

講座に参加して十一年。大塚美子さんは十六年という大ベテラン。各々が月に一作のペースで制作を続けているという。展示されたどの作品からも、絵画制作への情熱がひしひしと伝わってきた。全体に共通する厚塗りの画面は、油絵の具の素材感を生かしたもので、ステンドグラスのような重厚な輝きを放っていた。

●「林典子日本画展」(二〇一〇年一〇月二十五日～二〇一〇年一〇月三十一日)。高校時代に日本画に出会って以来二五年間日本画を描く、メタivismである水の感触と和紙の質感に惹かれ、素材との対話を大切に制作している。人と語る。人を描いた作品が多かったが、今回は花をテーマにしたものも多く出品。抹茶を下げに使ったという作品は微妙な柔らかなさを感じさせた。(K・K)

熊本県伝統工芸館

熊本県千歳町3-9-5 電話 3324-4990

●「生活いろとり」旬を渡る九州クラフトデザイン協会選抜展(二〇一〇年一〇月八日～二〇一〇年一〇月十八日)。九州クラフトデザイン協会メンバー八人による選抜展。色の違う土を練り込んでストラップ模様を出す長友聖子さんの陶芸作品は、植物の穂のイメージを練り込んで美しかった。また素朴な反付き楀(け)やき(ホイル)などを出品した時松松夫さんの木工作品、シンプルに見せつつディテールに現代らしさを感じさせる長谷川武雄さんの磁器など、見どころがあった。また期間中は出品作に花や料理を盛りつけるパフォーマンスが行われ、生活の中で生かせる工芸を提案していた。

●「安野燾 暮らしの中に生きる展」(二〇一〇年一〇月八日～二〇一〇年一〇月十八日)。

●「こはんがおいしくなる術」福屋淳子・津原陶展(二〇一〇年一〇月八日～二〇一〇年一〇月十八日)。かわいらしい道形の線が並んだ。た皿など、かわいらしい道形の線が並んだ。

●「沖縄の手仕事展」(二〇一〇年一〇月十四日～二〇一〇年一〇月二十一日)。沖縄の木工、織物、ガラス工芸、木の家具、陶芸などの展示。会場には織り機も設置され、実際に織入の方が制作の様子を見ることができた。織物の魅力もだが、織り音の美しさも堪能した。

●「押し花作品展 四季の花 色・彩」(二〇一〇年一〇月十四日～二〇一〇年一〇月二十一日)。

●「上野みちよ 手染めレース作品展」(二〇一〇年一〇月十四日～二〇一〇年一〇月二十一日)。

●「九州地区伝統工芸品まつり」(二〇一〇年一〇月十六日～二〇一〇年一〇月二十一日)。

四季の彩

熊本県上通4-1-0(トウヤビル) 電話 3351-8332

●「土野精二油絵小展」(二〇一〇年一〇月一〇日～二〇一〇年一〇月二十一日)。土野精二さんの油絵の展覧会。画面は黄金色が目にしみる。その傍らには、熊本城の桜や高森のアサギ、高校野球の一場面を描いた作品。その日本めな感じとやがて、いじらしさが心に響く。(A・S)

●「花と風と」水彩画展(二〇一〇年一〇月十一日～二〇一〇年一〇月二十一日)。向井智子さんによる水彩画展。季節の花とヨーロッパの旅の思い出を、透明感のある線を基調に丁寧に描かれていた。(Y・H)

熊本県立美術館分館

熊本県千歳町2-1-6 電話 3351-8411

●「第三七回熊本水彩画会」(二〇一〇年一〇月八日～二〇一〇年一〇月二十一日)。分館全体を使い二四点が並ぶ。熊本水彩画会員の奥谷恵志さんの刻(わたさく)は、ひびかれたアスファルト上の白線、車の軌、電柱の影の重なり合いを、抑えたマントな色調でまとめる。対象へのクールな視点と高いテクニックが、何気ない景色をどこかで見えた懐かしい風景へと変えさせる。

●「第二八回武蔵野美術大学卒業生展」(二〇一〇年一〇月八日～二〇一〇年一〇月二十一日)。武蔵野美術大学出身者による油彩、日本画、デザイン、クラフト。美大の建だけあり、いずれもハイレベル。

●「Panika Vol.1」(二〇一〇年一〇月一四日～二〇一〇年一〇月二十一日)。旧イコウロウ展のリニューアル。二〇代から四〇代までの若手を中心。軽・速・薄といった、この世代ならではの身体感覚が面白い。

●「第七回彫刻の会」(二〇一〇年一〇月一四日～二〇一〇年一〇月二十一日)。

●「第一回川水画会」(二〇一〇年一〇月一〇日～二〇一〇年一〇月二十一日)。

出展数と、いきいきとした会場の特徴に驚かされる。(A.S.)

●「第二回春美術展」(二〇一〇年十一月二二日) 作家の井上香織さんと川上清泉さんが指導する八人が八六点を額や軸装で展示した。明や清時代の漢字の書風が多く見られた。調和と作品も美しく、楽しい会場となっていた。井上さんの絵画や、川上さんの複製は手なれた優しい作品である。(S.K.)

●「第八回九州高校生デザインコンクール」(二〇一〇年十一月二二日) 熊本デザイン専門学校主催のデザインコンクール。四季をテーマにした作品が並ぶ。グラフィックに限らず、立体・絵本など、アイデアと巧みにあふれる。

●「坂口豊隆」(二〇一〇年十一月二二日) は、これまでの坂口さんの画業を回顧する構成。七〇年代以来追及されてきた、対立する二つの様子を並置した二連画、三連画、スプラッシュを敢行したオールオーバー・ペインティングなど。期間中、パートナーの那須シズノさんによるパフォーマンスも行われ、活気ある展示となった。(A.S.)

●「フォトキッズ写真展」(二〇一〇年十一月二二日) 第三回ともうの会館画展(二〇一〇年十一月二二日) ●「花のスケッチ」(二〇一〇年十一月二二日) ●「水産漁業畜産合同作品展」(二〇一〇年十一月二二日) ●「第二回西日本美術展」(二〇一〇年十一月二二日) ●「先」熊本文化協会、熊本文化協会から第二回熊本美術功労者の表彰を受けた野口山さん主宰の画展。会員四〇名が感じや調和の作品約六〇点を並べた。基本を大切に、指導者の真面目さを反映し、堅実な作品がそろった。己の心境を託した会長の絵入りの「白道」は好感が持てた。(T.M.)

●「松前重興博士遺墨展」(二〇一〇年十一月二二日) 松前氏、生誕百年と、没後十年を記して、郷土での遺墨展である。作品は松前氏が平和を愛し、教育への情熱や徳を、糸巻等を軸にして六〇点と、手紙等二〇点を展示。書は随にも留めていないといわれているが、とても丁寧である。情多の人で、骨力に富み、力強い表現で、会場を魅している。(S.K.)

●「日本列島の地盤を走る一紀一」(二〇一〇年十一月二二日) ●「日本列島の地盤を走る一紀一」(二〇一〇年十一月二二日) ●「日本列島の地盤を走る一紀一」(二〇一〇年十一月二二日)

●「日本列島の地盤を走る一紀一」(二〇一〇年十一月二二日) ●「日本列島の地盤を走る一紀一」(二〇一〇年十一月二二日)

どんぐり、飽満、増といった山海の思みが、徳永さん独自の理論によって詰められる。簡文の精神をうけつ、まさに小さな宇宙。

●「シルバークラウド」(二〇一〇年十一月二二日) 中村裕子展(二〇一〇年十一月二二日) 不自由な体をおして描きためられたという八〇点。まるまるとした髪型や顔が画面いっぱい溢れ、気持ちいい、くいくいと対象に迫るタッチ、こっくりとした色彩が印象的。

●「いわき市半田水彩画展」(二〇一〇年十一月二二日) は、晴々しい青りまで立ちのびてきそうな植物やコスモスなど、群像や面立などに仕立てた趣向も面白い。

●「東郷水画・墨彩画の世界」(二〇一〇年十一月二二日) ●「ふくし生協組合員作品展」(二〇一〇年十一月二二日) ●「ふくし生協組合員作品展」(二〇一〇年十一月二二日)

●「ふくし生協組合員作品展」(二〇一〇年十一月二二日) ●「ふくし生協組合員作品展」(二〇一〇年十一月二二日)

●「ふくし生協組合員作品展」(二〇一〇年十一月二二日) ●「ふくし生協組合員作品展」(二〇一〇年十一月二二日)

●「ふくし生協組合員作品展」(二〇一〇年十一月二二日) ●「ふくし生協組合員作品展」(二〇一〇年十一月二二日)

●「ふくし生協組合員作品展」(二〇一〇年十一月二二日) ●「ふくし生協組合員作品展」(二〇一〇年十一月二二日)

●「上通郵便局プラザ」(二〇一〇年十一月二二日) ●「上通郵便局プラザ」(二〇一〇年十一月二二日)

●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日) ●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日)

●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日) ●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日)

●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日) ●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日)

●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日) ●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日)

●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日) ●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日)

●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日) ●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日)

●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日) ●「NHK熊本文化センター」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アジアの布」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アートスペース大宝堂」(二〇一〇年十一月二二日)



アジアの布、展覧会展示風景



藤澤清三郎さんの作品(藤澤人)

●「藤澤清三郎」(二〇一〇年十一月二二日) ●「藤澤清三郎」(二〇一〇年十一月二二日)

●「藤澤清三郎」(二〇一〇年十一月二二日) ●「藤澤清三郎」(二〇一〇年十一月二二日)

●「藤澤清三郎」(二〇一〇年十一月二二日) ●「藤澤清三郎」(二〇一〇年十一月二二日)

●「藤澤清三郎」(二〇一〇年十一月二二日) ●「藤澤清三郎」(二〇一〇年十一月二二日)

アートルーム イケオ



●「アートルーム イケオ」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アートルーム イケオ」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アートルーム イケオ」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アートルーム イケオ」(二〇一〇年十一月二二日)

●「アートルーム イケオ」(二〇一〇年十一月二二日) ●「アートルーム イケオ」(二〇一〇年十一月二二日)

田島 涼子さん Ryoko Tajima

この連載では、熊本にお住まいで、様々なジャンルで活躍されている方々に、活動によせる熱い思いを語っていただきます。第5回目は生田流箏曲教授の田島涼子さんにお話を聞きました。

略歴/故沢井忠夫氏に師事。古典から現代箏曲を学ぶ。また作曲家河村忠夫氏にも師事し、新しい箏の可能性を探求。平成7年、ギリシャ政府主催アテネフェスティバルに出演し、日本人として初めて箏を演奏。国内外30数ヶ所で演奏活動を行なう。平成12年度「くまもと県民文化賞」受賞。CD「ソプラノ箏がうたうラテン」、CD「紅花の里」などをリリース。現在、沢井箏曲院教授、熊本県文化協会会員、熊本県文化懇話会会員。

—お箏との出会いからお話いただけますか。

田島:出身は宮崎県の五ヶ瀬町なんです。でも音楽が好きで、中学3年から音楽の遠征だった当時の九州女学院に転校したんですね。高校3年までピアノ一筋で、それまで学んで見たこともなかったんですよ(笑)。ところが九女の幼稚園で子供たちに音楽を教えていたとき、ある日、藤崎宮の近くを通りかかったら、箏の音が聞こえてきたんです。「ああ素晴らしい、ふわっと引き寄せられるように門を叩いたのが、すべての始まりでした。

—ピアノからお箏への変身に違和感はありませんでしたか。

田島:ところがそれがぜんぜんなかったの。洋楽の基礎が設立したんですね。もう、すぐにはまっちゃったんです。そして、沢井忠夫先生と作曲家の河村忠夫先生との運命的な出会いが、今日の私を決定づけることになりました。沢井先生は毎月東京から福岡にいらして、通算25年、みっちり指導を受けました。そして同じ時期に河村先生と出会い、今度はポップスの勉強に毎月東京に通うことになったんです。もう本当に無我夢中でした。河村先生はソプラノ箏とベース箏を創案された方なんですけど、その箏を使って、「第一世界をまわる」という10枚からなるLPのレコーディングにも参加させていただきました。その頃からですね、熊本で箏によるポップス・コンサートを行うようになったのは。

—お箏でポップスを演奏することに対する、当時のお仲間への反応はどうでしたか。

田島:それはいろいろありましたよ。お箏は古典だけやりなさいってね。でも聞かれないふりしてね(笑)。音楽って「音」を「楽しむ」って書くでしょ。すばらしい古典の名曲も、むずかしさの前に聴く人がいなければ意味がないと思うんです。古典のすばらしさを知るからこそ、まずお箏のことを知ってほしい、観望してほしい、そのきっかけづくりのひとつがポップスだったんです。

—先日コンサートを聴かせていただき、本当にお箏の幅の広さに驚きました。ポップスや童謡だけでなく、なんでも飲み込んでしまえますね。

田島:師のひとりである沢井先生はジャズもラテンもなさっていましたし、つくづく良い先生に恵まれたなって思います。私は古典もきちんとやりますが、特に若い人たちに共鳴してもらえたいのが欲しかったんです。ビートルズを弾いたりすると「箏も面白い」って、若い人たちがいてくれるんです。邦楽が一部の人が聴かないようになって寂しいですね。誤解されている敷居の高さを全部取り払いたいです。

—海外での演奏も多いですね。

田島:海外へ行くと、反応がストレートに伝わってきます。日本の楽器と音楽に本当に感動してもらえるんです。次の曲に移るまで拍手が鳴り止まないなんてことも、一度や二度ではありませんでした。古



典の名曲はもちろん、その国の代表的な曲や、世界中の誰かが知っているポップスを織り混ぜるんです。音楽の前では世界はひとつだなって実感します。そして、「箏をやっている本当によかった」って思うんですよ。だから、日本の若い人たちにも、様々な国際交流の場で、自分の国の楽器や音楽をもっともっと自信をもって紹介してほしいんです。そのためにも入り口はどうあれ、お箏だけでなく、邦楽に親しむきっかけを私たちが考えていかなければならないんです。

—来年度から学校の授業にも「邦楽教育」が取り入れられるそうですが。

田島:これまでも県下の小中学校でスクールコンサートを開くなどして、その普及に努めてきましたが、やっと正式に動き始めたという感じです。でもこの一歩は本当に大きいんです。学校の先生方にも最初は戸惑いがあるでしょうが、無理をせず、西洋の音階に合わせてチューニングするというようなことから始めてほしいんです。先生がつまらなかつたら、子供が楽しいはずありませんものね。お箏も学校に1台か2台ということでしょうから、理想には程遠いんですけど、子供たちが直接お箏に触れるということからの出発ですね。あせらず、私や息子の承山にできることは何でも協力したいと思っています。

—その承山さんも東京芸術大学で邦楽を学ばれた尺八の演奏家ですが、頼もしい後継者ですね。

田島:熊本に帰ってきて、いろいろと助けてくれるので本当にありがたいです。もちろん演奏家としては別の人間で、良きライバルでもありますから、切磋琢磨してお互いにいい音を作り出していけたらと思っています。けんかもしますけど(笑)、やっぱり直なんじゃないか、演奏のときの呼吸の吸気は親子ならではものかもしませんね。これからもオーケストラとの共演や、もっとグローバルな視点で様々なことにチャレンジしていきたいので、今まで以上に承山の力が必要になると思っています。

—最後に、先生のお立場から熊本市主催の「邦楽コンクール」について、ご要望がございましたらどうぞ。

田島:今年で7回目を迎えたわけですけど、市の文化振興課の皆さんが一生懸命盛り立ててくださって、全国的にも知られるようになってきたことは本当に嬉しい限りです。邦楽史に埋もれていた長谷校校を掘り起こし、また市民に対してだけでなく、熊本から全国に文化的な発信をするという意味でも、重要な催しになってきたと思います。そうですね、もし出来るなら、グランプリを全体でひとつではなく、ジャンル毎に設けていただければ、審査の基準ももっと明快になるような気がします。そうすれば応募者の心構えも違ってくるのではないのでしょうか。そして、難しいコンクールですけど、地元からもチャレンジする人がどんどん増えるといいですね。

—ありがとうございました。

(12月4日、於・田島涼子さん自宅、聞き手:南島 宏)

編集後記

美術館のアートワークの打ち合わせに光の芸術家ジェイムズ・タレルさんが来館しました。本誌第4号で紹介したマリーナ・アブラモヴィッチさんもそうですが、歴史に残る、すばらしい芸術作品を作り出してきたアーティストたちに共鳴するものは、彼ら/彼女らがつねに謙虚であるという態度です。熊本県現代美術館はいよいよ来年10月に開館しますが、こうしたアーティストたちの態度に学びながら、心に響く展覧会を謙虚に企画していきたいと思っています。来年も皆さんの力作を楽しみにしています。それでは多くの恵みが皆様を訪れますように、よい御年をお迎え下さい。

【お詫び】先月号の「SUITOTTO-KUMAMOTO」で島田真祐さんのお名前が間違っていました。お詫びいたします。

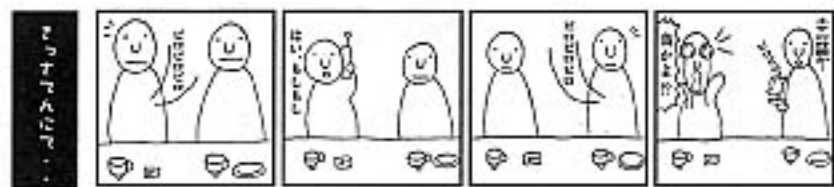
(編集長 南島 宏)

寄稿者紹介

- 兼城 昌山 (R.K)**
Shozan Kaneshiro
NHK日曜美術館でみた画家バルテュスは、死の前まで、絵をかき続けたいと死んだのが印象的だった。作家の生きざまを見てとった。
- 森山 淡草 (T.M)**
Tanso Maruyama
例年のことながら尚美学堂の陽春大作は尊敬であった。出来の善し悪しを言う前に、若さのエネルギーを讃えよう。
- 田代 晃三 (K.T)**
Kozo Tashiro
巨匠の作品はいろいろ教えてくれるが、その仕事の量を見ると圧倒され納得させられる。

学芸員紹介

- 本田 代志子 (R.M)**
「邦楽の夢プロジェクト」を機に、今の自分の夢を言葉にしてみようと思いました。
- 坂本 顕子 (A.S)**
プレイベント第7弾「選抜っ子美術新鋭展」開催！小学生の面白美術新鋭、最寄りの小学校でこらな下さい。
- 金澤 韻 (K.K)**
生まれて初めてのロンドン。全行程は終日美術館とギャラリー回り、でも見終わらなかつた(笑)。
- 富澤 治子 (H.T)**
バルテュス展に行った。E・ブロンネの「嵐が丘」への神話はそのすこい、美しい情景の渦にのまれる。



イラストレーション:熊本デザイン専門学校、グラフィックデザイン科2年 山口 ありさ